

## 第八次福井市総合計画審議会 専門部会 第1部会(第1回)

■日 時:令和3年4月26日(月)15:00~16:40

■場 所:福井市役所 本館3階 第3会議室A

■出席者:別紙のとおり

■会議内容

## 1.開会

司 会

---

それでは、定刻となりましたので、総合計画審議会 専門部会 第2部会の第1回目を開会いたします。開催にあたりまして、総合政策課課長からご挨拶を申し上げます。

## 2.あいさつ

事務局

---

委員の皆様方におかれましては、公私ともにお忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日から専門部会で、委員の皆様方には第八次総合計画の素案について詳細にご審議をいただくこととなります。委員の皆様方それぞれのお立場から活発なご意見をいただきますことで、総合計画が本市の明るい未来へのかけ橋となることを願っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司 会

---

続きまして、部会長の三寺委員からご挨拶をいただきたいと存じます。

部会長

---

この部会の部会長を務めることになりました福井工業大学の三寺と申します。よろしくお願いいたします。

大学では、学生たちに都市デザインに関する講義を行ったり、自分自身は公共交通を中心としたまちづくりとか、交通と土地利用に関する研究を進めておりました。

私の自己紹介はここまでさせていただき、前回の全体会のほうでもお話があったと思うんですけども、総合計画の策定というのは、福井市の全ての政策であるとか、事業の最上位計画となります。そういったことを念頭に置きながら、できれば広い視野で、細かいところを突つくのではなくて、そういった形で進めていきたい。この部会のテーマは社会基盤分野という形になっていますので、まちづくりの指針になるように進めていければなというふうに思っております。

皆様に検討いただきたいのは、実は主に施策に掲げられた文言かなというふうに私は思っておりまして、できればやわらかい文言、そして市民に分かりやすい文言というところを検討いただきたい。つまり、市民が見て、わくわく、どきどきするような政策であるとか、施策というものに仕上げていきたいなというふうに思っております。

皆様には様々な視点から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

進行において不慣れな点もあるかと思っておりますけれども、よろしくお願いいたします。

## 3.自己紹介(略)

## 4. 副部会長の指名について

司 会

福井市総合計画審議会条例では、「副部会長は部会長が指名する」とされており、ここで部会長に副部会長の指名をお願いいたします。

部会長

それでは、条例に基づきまして副部会長を指名させていただきます。奥村委員に副部会長をお引き受けいただけますでしょうか。お願いします。

〔「はい」の声あり〕

では、よろしく申し上げます。ご承諾いただきまして、ありがとうございます。

司 会

それでは、条例第6条に基づき、部会長に議事の進行をお願いしたいと存じます。部会長、よろしくをお願いいたします。

## 5. 議事

## (1) 政策1「公共交通に関する政策」

部会長

それでは、ただいまから議事に入ります。

この第1部会では、社会基盤分野「快適に暮らすまち」の政策及び施策について審議いたします。

部会の進め方については、先日の全体会で事務局から説明があったとおり、全3回の専門部会のうち、まず本日の第1回、そして第2回で素案に示された政策及び施策について委員からご意見を伺います。その後、第3回では、各委員からのご意見を踏まえた素案の修正内容について審議いただき、そういった流れで進めていきたいと思っております。

第1部会では政策が3つあります。皆さんご存じだと思うんですけども、本日は政策1「公共交通に関する政策」と政策2「中心市街地に関する政策」について審議を行ってまいりたいと思っております。

前回の全体会でも話があったとおりですけども、本日検討するのは前回の資料をお持ちでしたら資料3の13ページにある満足度を見ていただきたいんですけども、非常に市民の満足度が低い結果となっている2つの政策について議論を行うということなので、この資料も見ながら進めていきたいと思っております。

審議に当たっては委員からのご意見をできるだけ多くいただきたいと思っておりますので、事務局からの説明は簡潔にお願いしたいと思います。それでは、政策1の審議を始めます。

本日は、追加資料があるようですので、その件も含めて事務局から説明をお願いします。

事務局

まず、本日卓上にお配りした追加資料について説明いたします。この資料は七次総合計画と八次総合計画の比較表でございます。参考資料として、適宜、参照いただければと思います。

それでは、説明させていただきます。資料は、お手元の紙ファイルに綴られた資料4第八次福井市総合計画素案の政策1「公共交通に関する政策」をご覧ください。

この政策については、現在の第七次総合計画においては、「中心市街地に関する政策」や「地域に関する政策」の中で、一つ下のレベルの施策として位置付けていました。今回の第八次総合

計画においては、これらをまとめ、一つの政策として新たに設定をしたものでございます。

公共交通の現状について、データを用いてご説明させていただきます。恐れ入りますが、お手元の「参考資料 福井市の現状データ集」14ページをご覧ください。

このデータは、鉄道とバスの輸送人員の推移を示したグラフです。

鉄道の輸送人員数は、平成20年度以降、増加傾向にあり、バスについても平成20年度から25年度までは減少傾向にあったものの、それ以降はほぼ横ばいで推移をしております。

鉄道とバスを合わせた輸送人員数では、10年前と比べて10%以上増加しております。これは、えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れや、福井駅バスターミナルの整備、福井鉄道の福井駅延伸などの各種施策に取り組んだ結果、公共交通の利便性向上や利用促進に一定の効果があったものと捉えています。

資料番号3「第七次福井市総合計画の振り返り」13ページをお願いいたします。この資料は、昨年6月に実施した市民意識調査において、第七次総合計画の各施策に対する市民の満足度を表したグラフです。このグラフの見方としては、タテの線を軸として、棒グラフが右側に長いほど満足度が高く、逆に左側に長ければ、満足度が低いというものになります。このグラフにおいて、市民の満足度が最も低かった項目は、「公共交通機関に関する利便性向上」という結果でございました。

ここで資料4、第八次福井市総合計画素案の1ページをお願いします。現状の部分でございませぬ。

第八次総合計画の計画期間には、北陸新幹線の福井開業が予定されています。新幹線開業により、交流人口の増加が見込まれる中、観光やビジネスにも利用しやすい二次交通の充実が求められており、また高齢化の進行をふまえ、これまで以上に、市民の日常生活の足としての公共交通が重要となります。このようなことをふまえ、第八次総合計画では、新たに政策1として「公共交通に関する政策」を掲げ、これまで以上に力を入れて取組を進めようとするものです。

次に、右側の施策についてでございます。この政策では、4つの施策を掲げました。

一つ目は、「1 北陸新幹線の早期全線開業を目指す」です。100年に一度のチャンスといわれる新幹線福井開業を早期に実現するため、県や関係団体と連携し、北陸新幹線建設を促進します。

次に「2 公共交通の利用を促進する」についてです。

利用者の移動ニーズを踏まえ、多様な交通手段を利用して快適に移動できる交通体系を構築します。また、交通事業者に対して必要な支援を行い、市民の重要な移動手段をしっかりと確保してまいります。

次に「3 ICTを活用して公共交通の利便性を向上する」についてです。

MaaSとは「ICTを活用し、様々な交通手段をシームレスにつなげ、出発地から目的地までの移動を一つのサービスとしてとらえる概念」であり、MaaSの導入により、スムーズな乗り継ぎが可能となるなど、利便性の向上が期待されています。本市においては、県や近隣市町と連携して、MaaSの導入などのICTを活用した利便性の向上に取り組んでまいります。

最後に「4 地域拠点の機能充実を図り、公共交通利用者の利便性向上を図る」です。

日常生活に必要となる医療や商業などの機能を備えた地域拠点づくりや、交通事業者と協力してフィーダー交通の効率的な運用を行ってまいります。

以上で、「政策1公共交通に関する政策」の説明を終わります。

部会長

それでは、ただいまの説明を踏まえて、素案について委員の皆様からご意見をいただきたいと

思います。挙手の上、ご発言をお願いしたいんですが、いかがでしょうか。

#### 委員

課題①「北陸新幹線の早期全線開業」で、ニュースでもあるとおり、コロナウイルスの影響で工事が進まない中、連携して促進するとありますけれど、逆に人の業務負担が増えて、人員を補強するにもできない。そうなると、その分またお金もかかるという意味で、早期の全線開業というのは少し難しいところがあるのではないかなと思うんですが、そういう意味で少しご意見をいただきたいなと思います。

#### 部会長

ありがとうございます。

そうですね。これは目標として早期の開業を目指す書き切っているんですけども、それが現実としては難しいのではないかとということですね。

何か事務局として回答をお持ちでしたら。

#### 事務局

「北陸新幹線の早期全線開業」の、「全線」とは、大阪までのことを言っております。

昨年の暮れから、北陸新幹線の工事が遅れる、という話がでておりましたが、それは、福井、敦賀まで、県内開業のことです。

大阪まで早期に延伸させないと、例えば南海トラフ大地震、これが太平洋側であったときに、その代替となる交通手段が日本にはない。国土強靱化を図る上でも、日本海側に代替路線を早期に確保することが非常に重要で、これは第二国土軸とも言われております。

大阪までの延伸のことですので、県や関係自治体等と一緒に、国を押し、しっかりと財源をつけていただいて、少しでも早くやっつけていかないといけない。国家プロジェクトを少しでも早く進めようということで、ここに掲げている、ということでご理解いただければと思います。

#### 部会長

もし何か関連してお聞きしたいことある方いらっしゃいましたら。よろしいですか。

私も少しその点について1点聞きたいと思ったのですが、新幹線を福井市としてどうするのか、というところがもう少し見える形になって書き表れていれば、と思ひまして。

遅れることはもう仕方がないけれども、その新幹線をきちんと受けるために地域はどうあるべきかというところ、もちろん施策②、③、④で書かれてはいるのですが、そこセットで少し文言を加える、例えば並行在来線の話であるとか、二次交通の話というものをそこに入れるべきかどうかということ、皆さんと議論していきたいところです。

そういった話がないと、福井市として何ができるのだろう、ということが少し見えにくいとも思いますので、そのような文言に変わると、今の疑問もなくなると思いますが、どうですか。

#### 委員

良いと思います。

#### 部会長

新幹線開業が1年延びるということではなくて、全体としてしっかりつくり上げるというところを福井市として思い描いていくということを施策①で指し示すと思うんですけども、それと併せて福井市が何をすべきかということですね。

何か新幹線、せつかく話題に出ましたので、もし何かあれば。

#### 副部会長

ここへ座ってしまったので、いろいろと予習してきたんですが、ちょっと発言しにくいんですが。

新幹線に関しては、今、部会長がおっしゃったようなことですが、その現状の中には並行在来線のことを書いてあるのですけれども、政策の中には全くその言葉が無いわけで、やはり施策②の「公共交通の利用を促進する」という中で、並行在来線についても何か明示しておくべきでないか、と思います。

それから、施策④の「地域拠点の機能充実を図り・・・」のところですが、やはり福井市の公共交通の弱点というのは南北よりも東西ですね。西、東を結ぼうとする公共交通が弱いような気がしますので、なかなか事業としては難しいかもしれませんが、やはり東、西を結びつけるような方法に取り組むべきではないかと思います。

#### 事務局

---

先ほどの新幹線の開業です。記載するとすれば、よく、開業効果を県内に広げていく、というようなところを耳にしますので、特に福井市の場合、大きな福井駅という、一番の玄関口になる自治体でもありますので、そういったところの交通をつなげていくと。

その中で、今お話のありました東西というのは、確かに課題だと思います。越美北線をはじめ、あるいは路線バスといったところでどういう風に強化していくというのは、これからのあと3年間でどこまでやるか、ということになると思います。まさに東西の交通の視点というのは大事だなと思っています。

#### 部会長

---

ありがとうございます。

そうですね。東西のネットワークの強化を図るとか、そういう言葉をその中に入れていいかどうかということ。どうですかね、事務局のほう。今の話ですと、そういう文言、ちょっと強く当たりますか。

#### 事務局

---

昨年度、第2次福井市都市交通戦略をつくりました。第1次都市交通戦略から言っていたのは、6方向幹線軸の強化ということで、東西と南北と、えち鉄とJR、またえち鉄の勝山線。あと東西ですとバスで強化していくということで。特に東西だけ強化するのではなくて、その6方向の幹線軸につきましては、例えばダイヤとかそういうものも含めて強化していきたいと思っています。

特に東西だけを強調して強化していくのではなく、6方向の幹線軸を強化して全域交通ネットワークをつくっていききたいと考えております。

#### 部会長

---

ありがとうございます。

そうですね。せめてこの施策のほうで書きづらいようでしたら、例えば現状のところとか課題のところを文言を少し添えるぐらいはしてもいいのかなと。明らかに福井市内交通ネットワークだけで見ると、やはり東西方向が弱いのは間違いなく課題として出てくると思いますので、そういった書き方はどうですかね。やわらかい書き方で書けばいいのかなとも思うんですが。そこも含めて全体のネットワークを強化していくというような書き方に。

#### 事務局

---

そうですね。とにかく全体ネットワークを強化していきたいという大前提がありますので。またちょっと書きぶりは考えていきたいと思っています。

#### 部会長

---

ありがとうございます。何か関連意見はありますか。

#### 委員

今おっしゃっていたいわゆる二次交通ですね。二次交通という表現でいいのかどうかというのはあるんですが、新幹線が来て、新幹線が来たから全てがよくなるということではなくて、それを受けるいわゆる二次交通というものがちゃんと新幹線の運んでくる乗客を目的地へさらに運んでいくというような機能を持たないと、新幹線の効果は十分発揮できないと思うんですね。

ですから、そのネットワークということで良いとは思いますが、何か新幹線と二次交通、地域交通との緊密な連携によってとか、何かそういうようなことが必要なのではないかと、思います。

#### 部会長

多分、私も最初にお話しさせていただいたことに関係してくるのかなと思うのですが、新幹線と絡めて、ということで、受皿をちゃんと福井市でつくりましょうという書きぶりを、どこかで、施策の中で、ということですね。

#### 事務局

ちょっとその書きぶりを、検討させていただきたいと思います。

#### 委員

東郷地区でまちづくりをしているのですが、福井市の方針の中にも中心市街地のまちづくりと、それから海沿いのほうのまちづくりと、それから東のほうでいうと朝倉氏遺跡を中心としたエリアを設けて重点地域にされています。それをつなぐ東西の交通でいうと、越美北線、バスの利便性も大事なのですが、魅力をアピールするようなことも重要だと思います。

例えば景観上の桜並木とか、途中にいろんなことを仕掛けることによって、ぜひ行ってみたいとか、あるいはあそこへ行けばああいうものがあるから今度4月の桜のときは、足羽川沿いの桜もすばらしいけど、朝倉氏遺跡の中の糸桜もすばらしいというような、魅力を結べるラインというか、そういうものとして。

今、越美北線は存続の危機にあると言われていて、それが冬の雪害とか、そういうものから辛うじて残っているというようなことをお聞きしたので、何かもう一つ違う視点から捉える文言があってもいいのではないかなと思います。

#### 部会長

ありがとうございます。非常に貴重なご意見だと思います。

まさに私も、交通と土地利用という関係をきちんとうまく連携させないと、やはりそれは進んでいかないんだと。いくら利用促進という話をしてもうまくいかないということは、皆さん、もうご承知だと思ってしまうんですけども、そういった書きぶりをすることによって公共交通が使いやすくなると、そういった見せ方の一つかもしれないですね。あえてこの公共交通の中に盛り込むということで、少し見え方が違ってくるのではないかと、ということだと思うんですけど。

#### 事務局

今おっしゃられた越美北線、特に朝倉とか大野のほうに行くと、大野の城下町とか、いろいろ観光要素がふんだんにある鉄道ということで、今おっしゃられたように利用促進、観光と絡めて取り組んでいかなければいけないと思っております。また3月には、県、市、大野市とJRと観光部局による連携も果たしたということで、観光という目線では十分力を入れていかなければいけないと思っております。

ただ、施策②の4つ目の「・」の「交通事業者、行政、観光関連企業等が連携して、公共交通の

利用促進に取り組みます」という形で、施策のほうで載せさせていただいております。観光企業とは十分連携してやっていきたいというふうに考えております。

#### 部会長

そうですね。協働という形で、どちらかというと織り込みたい人たちだけではなくて、地元の人も巻き込みながら、地域としてもそこをきちんとネットワークの点としてつくっていくんだということだと思っただけでも、文言をちょっと考えなくちゃいけないと思いますので、次の施策②のところでもう少し議論を深めていければ、と思います。

#### 委員

施策②の2つめの「・」なんですけど、「市民の日常生活に欠かせない重要な移動手段を確保するため、交通事業者に対して必要な支援を行います」ということなんですけど、例えばえちぜん鉄道が昨年、100万人乗降者が減った。ということは、平成20年の頃よりもトータルで減ってしまったということになる。だから、せっかく毎年、利用者が増えてきたのに、コロナの影響で一気にゼロのところまで行ってしまっている。またそこからやっていかなきゃいけないわけなんですけど、当然支援はしていかなきゃいけないと思うんですが、この「利用を促進する」という、そういうテーマの中で「必要な支援を行います」と、わざわざ書く必要があるのかと。

当然支援は行っていくに決まっているわけで、何かその促進ということからはちょっとずれているような気がしないでもないんですけど、いかがでしょうか。

#### 事務局

おっしゃられるとおり、利用者はコロナの影響で相当減りました。今お話のあったところの、支援という中身ですけれども、確かに金銭的な、予算的な支援というのもございますし、今の利用促進という面でいろんな策を練っていくということも考えられると思っております。財政的な支援も当然必要なのですが、利用促進に向けたいろんな工夫ですね。例えば福井鉄道と連携して2社で頑張れることとか、そういったことも含めて支援というものを考えていけないかなと。

もう少し表現は工夫できればとは思いますが、そういったところの利用促進、利用者数回復に向けた支援というようなことをこれからもやっていけないか、ということもちょっとこの中に入れられないか、という気はしております。

#### 委員

分かりました。ただ、やはり今一番焦点になっているのはキャッシュレス決済の導入を、えちぜん鉄道にしても福井鉄道にしても、バスのほうは一部のバスでキャッシュレス決済できるような仕組みも始まったということなんですけれども、例えば施策②-5に書いてあるレンタサイクルなどにしてもキャッシュレス決済でぽんと借りられるようにするとか、そういったことができたらいいのかなとも思うんですけど、その辺も何か文言として書くことはできないのかなと。

#### 部会長

多分この施策③のところのICTの活用のところはまさにそれに該当するのかなと思うんですけど、あえて「キャッシュレス決済」というようなキーワードを入れるかどうかということですね。こちらのほうは少し検討させていただくという形でよろしいですか。

#### 委員

はい。

#### 部会長

ありがとうございます。

先ほどの文言ですけれども、例えば「財政的な支援だけではなく」とか、「いろいろな角度から支援を行う」といった文言に、もしかしたらそれに変えてあげると、行政が補助するだけではないというふうに見えるのではないかなと思いますので、こちらも検討いただいて文言を変えていきたいと思います。

#### 委員

今ほどのICカードとも絡むのかもしれませんが、一つ目の「・」の「移動ニーズをふまえ、多様な交通手段」というところですが、ここが今までのような交通手段だけでなく、カーシェアとかサイクルシェアみたいな、そういう新しい手段なども含めた上での対応だということを意識しておきたいということ。

そういうものを利用するときに、先ほどのICカードじゃないですが、同じ共通システムの中で利用できる環境をつくるということがその後続く「交通体系を構築」というところにもかかってきてほしいとあって、ダイヤとか、料金とか、乗換え場所だけの交通体系という考え方でなくて、そういう使う側のシステムも含めた交通体系というところで何か表現できるというかなと思います。

#### 部会長

そうですね。この辺はぜひとも検討していかなくちゃいけない。例えばレンタサイクルの話も、参考資料にレンタサイクルの設置場所、ふくチャリのことを書いてあったと思うのですが、例えばえち鉄のレンタサイクルは入ってなかったりとかというところは、使う側からしてみると実は同じレンタサイクルであることには変わりなくて。

レンタサイクルの話は少し置いておいて、使う側の目線に立った共通システムをしっかり構築してあげるんだというところは、もしかしたら先ほどのことと関連してキーワードとしては必要なのかもしれませんが、できる、できないというのはいろいろあると思うんですけれども、それを施策②のところに「・」を一つ加えたらどうかというご提案というふうに認識してよろしいですか。

#### 委員

なかなか交通事業者が事業者でできる話でもないですね。その辺は何か福井市みたいに大枠で取り組んでいるところが取り組むべき話かなと。

#### 事務局

ICカードはいろんな議論があって、費用の問題とかでなかなか導入が難しいというのは取りあえず状況としてはご認識いただけたらと思いますけれども、先ほど部会長もおっしゃられたとおり、ICT、施策③のところにMaaSというものが謳い込んである。その要素を、今ご意見いただいたところにどう加味するかというのは、今ぱっとは思いつかないんですけれども。

例えば交通事業者間での連携で、乗り継ぎといった形の中で、どんな言葉で入れられるかということについて、ICカードだけに特化しますと、あるいはMaaSに特化しますと、施策③とかぶるところもございまして、ここは少し考えさせていただかないといけないのかなという感じがしております。

#### 部会長

分かりました。ありがとうございます。

多分、委員がご指摘されたのは、それも含めて共通のシステムですよ。例えば路線図であるとか、全てですよ、きつとね。

#### 委員



そうですね。

部会長

その辺がどこまでできるかというところを見据えた上で施策を設定しなくちゃいけないと思うのですが、言葉としてここで掲げても、利便性を高めるという意味ではいいのかなと思うんですが、検討して3回目を確認させていただくという形で。

委員

私などは、ちょっと高齢につき、ICカードとかMaaSとか言われても、実際使いこなせるかどうかという不安があります。高齢者にも分かりやすい、今スマホでもいろんな機能がありますけれども、まだうちの主人なんかガラケーを使っているような状態でして、高齢者にも分かりやすいようなカードとか、そういった導入をお願いしたいと思います。

部会長

免許返納の話ともしかしたらリンクしてくると思うのですが、その辺の検討は多分まだされてないと思いますので、そういった文言を表すかどうかということですね。

そうですね、ちょっと難しいかもしれないのですが、そこも見据えてという形で、どこかで表現が、何か資料の中でもできればさせていただくという形でよろしいですか。

委員

はい。

委員

「知ってもらって使ってもらう」機会を増やすという文言があるんですけども、ここ、もう少し何か強化できないかなという気がしまして。

取組としても、やはり情報発信、あるいは啓発というのがやはり足りない。これは福井市がということじゃなくて、日本全体の公共交通についてなのですけれども、やはり情報発信とか利用啓発、そういったものが全体的に足りてないのだろうと思うんですね。やはりここを何らかの形で、情報を伝えるというようなことを、情報を十分に提供するというようなこととか、そういう概念みたいなものがここに入るといいのかなというふうに思います。

部会長

そうですね。いわゆるモビリティマネジメント的な、少しそれは専門用語になってしまうと思いますので、分かりやすい形で「情報を発信する」、そこまで文言を書いたほうがいいんじゃないかということですね。

委員

書いたほうがいいのではないかなと思います。

事務局

先ほどの満足度調査の中でも公共交通機関の利便性向上の満足度が低いというのを、いろいろ先ほど調べていたんですけども、これには載っていないんですけど、ほかの設問を見ますと、公共交通、ほとんど利用したことがないという方が全体の8割ぐらいいらっしゃるということで、今、委員おっしゃったように、私どものほうの情報発信も確かにちょっと不十分な点はあるのかなと思います。

モビリティマネジメントということで、例えば小学校に出向いてバスの乗り方、鉄道の乗り方なんかをお子様方に示したり、あとROBAの会と協働して年に1回、そのような機会を設けてモビリティマネジメント、大きなイベントを行っております。

この施策の中でももう少し書きぶり変えまして、もう少し分かりやすくすること、本当に情報発信については私どもも強化していかないと、せっかくいいシステムを導入しても、乗ってもらえないことには利便性の向上につながりませんので、この書きぶり、もう少し考えていきたいと思えます。

---

#### 委員

当然、そのICTを活用してというところにはなってくるのですけれども、どうしても決済や、MaaSで乗り継ぎとか、そっちのほうの意識に行きがちなんですけれども、すまいるバスとかを運行していると一番問合せが多いのは位置情報なんです。

何かそういう、もう少しベーシックな部分でも、位置情報の発信という部分を次にどうステップアップしていくかみたいところで、公共交通全体の位置情報であったり、先ほどの施策②の5つ目の「・」にある駐車場とか駐輪場と公共交通と連携させるみたいなこともあるので、そういう駐車場の位置情報とか満空情報みたいなものとの連携とか、ちょっとどこまで広げればいいのか分からないですけれども、そこまで位置情報として分かって使いやすくなるのではないかな。

---

#### 部会長

ありがとうございます。

多分、これまでたくさんいろんな事業者さんがそれぞれでそういった情報の提供ということをしてはいらっしゃるんですけど、じゃ、どこを見ればいいんだとか、使う側のユーザー目線になったときに、そこを統括するような場というのはなかなか把握しづらいということもあるのかなと思いますので、これはぜひともICTを活用していくというところで強化して。文言でどうしましょうね。

---

#### 委員

入れるとするのであれば、確かにMaaSとかは必要になってくる。特に新幹線開業をふまえて、観光の目線からも必要になってくるのですけれども、もう少し生活の面でのICTの利活用というのでもう一つ「・」を増やしてもいいのかもしれない。

---

#### 部会長

なるほど。「・」をw一つ増やしても確かにいいかなと思います。生活の利便性とか、生活そのものの質を上げるというところを目標。ICTを使って。どうでしょう、事務局のほう。

---

#### 事務局

ロケーション、確かにすまいるのようなものが京福バスさんとか、あるいはJR北陸線とかにはそれぞれで確かにございます。えち鉄とか福鉄というのはまだそういったシステムはありませんが、確かに利用者が使いやすいという点ではロケーションシステムとか、MaaSの決済というよりは乗り継ぎ関係の情報というのを一括して、というのは確かに将来的に望ましいというか、必要になってくるのだろうなと思います。ちょっとここも考えさせていただきたいと思えます。

---

#### 委員

今日頂いた資料の七次総合計画との比較表で、七次のときには「並行在来線の開業準備を進めます」というふうにきちんと書いてあったんですね。この八次の期間中に並行在来線、開業しちゃうわけですね。並行在来線に関するところが、それは公共交通という言葉の中に含めているならばそれでいいんですけど、どこにもないので、並行在来線に関するところがどうなのかなと思えます。

---

#### 部会長

今おっしゃられました新幹線に含めてというお話に近いところはありますけれども、確かに七次

のときに載っております。

事務局

並行在来線に関しましては、またちょっと検討させていただけますでしょうか。その書きぶりとい  
いますか。今、地域公共交通というもののの中に一応丸めて入っているような思いで、この八総の素  
案をお示ししていることになるんですけども。

部会長

多分、一番上のタイトルのところの「地域鉄道」というところに含まれているんですかね、考え方  
としては。

事務局

地域鉄道ですとか地域交通とかが全部入っています。

部会長

あえて、言葉を出したほうがいいということですか。

委員

そうですね。そのほうが分かりやすいのかな。

部会長

これから新しくできる交通であることは間違いないので。そうですね。ここはまた少し文言を浮き  
立たせて出すのかどうかということも、ちょっと修正案で検討させていただきたいと思います。

最後に、政策1の文言のほうを皆さんで考えていただきたいなというふうに思うんですが、「公  
共交通を利用して様々な人が便利に行き来できるスマートなまち」という書き方に前回とちょっと  
変える形で書かれているんですけども、この辺はいかがでしょうか。

よろしいですか。何かご意見があれば伺いたいなというふうに思うんですが。

委員

何かちょっと言いたいような気もするんです。

というのは、「スマートなまちをつくる」ということで何となく分かるのですが、このスマートなま  
ちということで伝わるのかな、とは思いますが。何かもう一言加えて、スマートという意味がもう少し分  
かりやすく浮き出るような、何かそういう言葉が欲しいなという気はしました。

スマートというのは、この分野では多分まちづくりとか、交通では、おなじみの言葉なのだと  
思うんですけども、一般の人たちにどう伝わるのかなということはちょっと思いました。

部会長

そうですね。スマートなまちというものが具体的にどういうものなのかということですね。

ただ、前回の第七次のほうの文言よりは割とすぐ伝わる内容に変わっているのかなという印  
象を私自身は受けたんですけども、どうですかね。何か形容詞が思い浮かぶようでしたら、今こ  
の場でいただきたいと思いますが。

副部会長

快適なまち。

委員

頭の中に浮かぶ光景みたいなものを、これどう表現したらいいのかなと思っているんですけれ  
ども、要は福井のまちというのがもうちょっと公共交通を利用することによって魅力的に見えるとい

うようなことがスマートの中にある意味に含まれるのかなというふうに思っていて、賢くとか、多分いろんな意味ではあるんですけども、ただ、スマートという言葉一言でここを片づけてしまわずに、もうちょっと。例えば「賢く」もいいですし、「魅力的な」というようなこともいいですし、何かもう少し市民の皆さんに頭の中に思い浮かべてもらえるような、私が今何となく頭の中にあるようなことが同じように市民の皆さんに思い浮かべてもらえるような、そういう言葉を、修飾語といいますか、ちょっと欲しいなという気がしました。

---

#### 部会長

分かりました。ありがとうございます。「〇〇なまち」というところの「〇〇な」というところをもう少し議論したらいいのではないかといいことだと思います。

---

#### 委員

スマートという意味ではいろんな、人それぞれ思い浮かべることがあると思うのですが、私といたしましては「安心・安全なまちづくり」という言葉を一つ考えております。

理由としては、やはりこれは公共交通に関する政策ということで、既存のインフラ、電車、バス、またタクシーというか、そういったものの利用の促進によっていろんな利便性を図ることなんです。

私も大学3年生のときにコンパクトシティ政策をちょっと学んでおりました、電車やバスといった利用の促進というのが共通しているんですね。電車とバスを利用することで、コンパクトシティ政策自体が中心市街地に人を集める。それによって人々の利便性であったり、人の行き来を快適にするといったメリットがある。そういった面では、例えば今、福井は少子・高齢化ということもあり、例えば高齢の方が病気になったときに病院に行くときに遠い。それによって亡くなってしまった方というケースも多いというもので、そういった意味では高齢の方も安心して過ごすことができる、または人とのコミュニティをつくりやすくなるといった意味では、安心・安全で人々が快適に過ごせるという意味では意味をなしているのではないかなと思っています。

---

#### 部会長

ありがとうございます。

今の議論というのは、公共交通に特化したわけではないんですけども、安全・安心という意味ではもしかしたら政策3のほうで、そういうふうに置き換えてということなのかということなんです。

でも、今、コミュニティの話であるとか、キーワードが幾つか出てきたと思いますので、またその辺も参考にしながら生かしていきたいと思います。

ほか何か、こういうキーワード入れたほうがいいんじゃないかというキーワードありましたらいただきたいんですが、よろしいですか。

---

#### 副部会長

私は「快適な」。

---

#### 部会長

「快適な」、なるほど。ありがとうございます。

---

#### 事務局

例えば「快適でスマートなまち」とか、重ねて記載する方法もあるかと思います。また検討させていただきます。

---

#### 部会長

いいと思います。ありがとうございます。幾つかキーワード出ましたので、もし何かこの会議の後にこれ思い浮かんだということがあるようでしたら、ぜひとも事務局のほうに連絡をいただければと思います。ありがとうございます。

時間もちょっといい具合に進んできましたので、政策Ⅰについて審議された内容をまとめたいと思うんですが、どうしましょうね。

実を言うと全部、いろいろ何かを根本的に直すというよりは、このキーワードを加えてくださいというような内容だったなというふうに解釈をしています。それでよろしいですかね。

政策Ⅰの掲げる文言のところは「スマートなまち」をもう少し魅力的に見えるキーワードに変えるということ。それぞれ、あと課題に対する施策に関しては、例えば施策①に関しては二次交通の話であるとか、もうちょっと新幹線開業と地域がどういうふうに受皿としてやるべきことなのかというところを書き加えるということ。

施策②に関しては、1つ目の「・」ところ、ここが共通システムというところをもう少し考慮した形で、ICTとも関連させて文言を考えたらどうか。2つ目の「・」に関しては、これは支援の話でしたね、たしか。財政だけではなくて、地域全体として支援をしていくということを文言として書き加える。

3つ目、情報発信の話を加えましょうということがありました。あと、4番目の「・」に関しては、こちらは地域との連携の話も少し入れたらどうかという話がありましたね。5番目の「・」に関しては、ほかとリンクさせて、もし書けるのであれば関連させるということなのかなというふうに思っております。

何かここまでで異論というか、これ違うよというところがありましたらご指摘いただきたいのですが、よろしいですかね。

施策③のところですけども、ここはもう少し「・」を増やして文言を加えてはどうかという話があったと思いますので、そこを加えるということ。

施策④のところ。これは具体的にご指摘はなかったかと思うんですが、さっきの交通と地域での土地利用の話がここと関係してくるのかなと思いますので、委員が御指摘されたようなことがもし書けるのであれば少し文言を加える程度でいいかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

事務局

特に施策④はどう加えていいか、ちょっとまだイメージが湧かないんですけども。

部会長

施策④のところは、福井市都市計画マスタープランのほうで設定されている13拠点に加えて1つの拠点ということですよ、書いている内容は。

事務局

そうです。福井市都市計画マスタープランと、都市交通戦略もそれに併せた拠点にしたんですけども。基本的には福井市都市計画マスタープランの拠点でいきたいとは思っています。考え方も。

部会長

そうですね。

事務局

先ほど委員がおっしゃっていただいたのは、地域のまちづくり的な観点から観光的なところで越美北線なんかをしっかりと活性化させていきたいということでしたので、先ほどもご指摘いただき

ましたけど、施策④-2の辺りのところで観光企業とか、地域という言葉を入れて、あと具体的な施策展開というところでもしっかりやっていくというふうなところで、方向性としてはそういう形で整理できればなど。

部会長

分かりました。

委員

「レンタサイクルの利用拡大」というのは、施策③のICTとも関係あるんで、いろんなことをミックスして利用する仕方だと思うのですが、えち鉄がやっている自転車の中へ乗せて運ぶというあのやり方はすごくいいなと思って、ヨーロッパとかも自由にできるし、自分も自転車乗っていた人間なんで、簡単にそのままの状態に乗せてくれるところはなかなかないので。

この「レンタサイクルの利用拡大」の部分で、何かそんなものもえち鉄のようにやれたらいいなと思いました。

副部会長

福鉄も始めたんですよ。

委員

福鉄も始めたんですか。あれはすごく便利です。お買物でも、それから旅行客でも、すごくいいなと思う。

部会長

海外の方では実は路線バスもフックがあって。フックにかけて、やれなくはないのですが、これをこの計画の中でどこまで書くかというところはなかなか難しいところがあると思いますので。

委員

JRとも何度も話したんですけど、なかなか車両が違いますって。

部会長

そうなんですよね。書きぶりはちょっとなかなか、もしかしたら難しいかもしれません。でも、すごく大事な視点だと思いますので、このレンタサイクルの中にそういった思いも込めてという形で解釈になるかと思いますが、よろしいですか。ありがとうございます。

じゃ、政策1のほうはここまでとしたいと思います。

〔「はい」の声あり〕

## (2) 政策2「中心市街地に関する政策」

部会長

それでは、政策2について事務局のほうから説明をお願いしたいと思います。

事務局

それでは、資料4 第八次福井市総合計画素案の、政策2「中心市街地に関する政策」をご覧ください。

本市の中心市街地では、北陸新幹線開業を見据え、民間等による市街地の再整備が進められています。この現状について、データ集を用いて説明させていただきますので、「参考資料 福井市の現状データ集」18ページをご覧ください。

この資料は、福井駅周辺における再開発の状況を示した資料です。

これまで、アオッサやハピリンなどの大型再開発事業が順次完成し、現在は駅前電車通り北地区などの再開発が進行中となっています。これらの再開発をしっかりと支援するとともに、ハピリンやハピテラス等のにぎわい交流拠点を活かしながら、さらなるにぎわいを創出していくことが必要です。

次に隣の19ページをご覧ください。中心市街地におけるリノベーションの状況についてです。

これまで、福井駅周辺において、カフェや居酒屋、シェアオフィスなどへのリノベーションが進められてきました。これまで、本市もリノベーションへの支援を行ってきており、今後もリノベーションの担い手の発掘・育成など支援を進めていきます。

次に、20ページをご覧ください。

これは、中心市街地における歩行者・自転車数を示したデータです。平成28年のハピリンの開業等を契機として、歩行者数や自転車数が増加に転じており、特にハピリン周辺において増加傾向が顕著となっています。

ここで、先ほどの資料4に戻りまして、第八次福井市総合計画素案の2ページをお願いします。

このような背景を踏まえ、政策2「中心市街地に関する政策」では、次の3つを掲げました。

まず、「1 県都にふさわしい魅力あるまちをつくる」についてです。

本市は、国土交通省が主導する「ウォークブル推進都市」として登録されており、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成を推進することとしております。

そのため、まちなかの道路の舗装などをしっかりと行うことなどにより、快適に歩いて楽しめる歩行者空間を整備してまいります。

次に「2 にぎわいの創出のための仕掛け、仕組みをつくる」についてです。

リニューアルした中央公園を活用した「ワンパークフェスティバル」などのイベントや、ソライロテラスなど道路空間を活用したイベントなどにより、にぎわいの創出を図ってまいります。

最後に、「3 うるおいと個性あるまちをつくる」についてです。

昨年、県、商工会議所と本市の三者による「県都にぎわい創生協議会」が設置され、空きビル対策や城址公園の活用などの検討が行われています。

今後も、県や経済界とも協力した官民連携の取り組みを展開し、福井城址を中心とした魅力向上など図ってまいります。

以上で政策2「中心市街地に関する政策」の説明を終わります。

#### 部会長

それでは、ただいまの説明を踏まえて、素案について委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

どこからでも構いません。一つずつの施策からでも構いませんし、1番冒頭の文言でも構いませんので、何かご意見ある方、挙手をお願いいたします。

#### 委員

文言を付け加えるとかというわけではないのですが、施策①「県都にふさわしい魅力あるまちをつくる」の「・」の2つ目ですけれども、「低未利用地の有効活用」というところで、どうしても駐車場、コインパーキングとかが非常に多く、特にサカエパーキングの南側とかが多いのですが、そこに土地を提供されている方のお話を聞くと、当面、自分のところだけで何かを建てると全体でやるときのために足かせになるので貸しているんだ、ということをおっしゃられていて、何か低未利用地にしている人だけが目の前の小遣い稼ぎでコインパーキングにしているというようなイメージでいいのかな、どうなのかなというのがちょっとあったんですけれども。でも、一般的にはこういう言い方になるんだろうなというふうに思いながら聞いていたんですけれども。

#### 部会長

そうですね。ちょっとネガティブな印象を受けるんじゃないかということですよ。

委員

書き方変えるの難しいですよ。

部会長

いや、でも多分、このコロナ禍の影響でもしかしたら階数の高いところも、そういうふうにご利用されてないエリア増えましたか。どうですか、実感として。

委員

やはり増えている。ただ、一方で、やはり新幹線の開業をふまえてというか、県外とか福井市外からの出店の問合せとか、空きビルとかの問合せも最近増えている。

部会長

なるほど。これはやはり窓口としてはまちづくり福井さんが窓口で。

委員

どうですかね。ほかにもいろいろと問合せされているのかもしれないんですけども、まちづくり福井でそういう店舗実態調査みたいなので空き店舗とかというのを出しているの、そこを見られて問合せしてくるのかなという気もしているんですけども。

部会長

なるほど。ありがとうございます。

そうですね、この書きぶりはもしかしたら書き換えるというのはなかなか難しいかなとは思いますが、何かコメントを添えることあれば。

委員

個人的な意見の集約なんであまり参考にならないかもしれないですけど。今、東郷でまちづくりをやっていると、外国の人とか、アーティスト・イン・レジデンスのチームとか、特殊ないろんな能力を持った人がよくやってくるんです、クリエイターが。その人たちが福井のまちを見たときに、中央公園とかお城跡とかというよりも、むしろ雑居ビルじゃないけど、何か未開発の部分にすごく注目して、彼ら若い人たちなりの意見をいろいろ持っていたり。また、まちづくり福井も関係あると思うんですけども、やっている人たちとの交流が生まれています。そのアーティストの人たちはどんどん食いついていっているんで。東郷の魅力もそうですけど、福井の魅力って、ちょっと1周遅れのレトロチックなところとか、あるいは歴史とか、すごく深い造詣のものとか、何か妙なアンバランス感がいいのではないかなと。

そして、福井市の玄関は当然オール福井の玄関でもあると思うのです。勝山とか三国とか。だから、そういう利便性を持ちながらも、レトロチックな部分とか、歴史の深い部分とか、足羽山とかの自然の豊かな部分とか、何かここに書いてあるのとちょっとずれたところに魅力があるのではないかな。今、若い人たちと交流していると、えっ、そんなところ行くの、というような見方がすごくあるので、ちょっと私は違和感を感じて見えています。

部会長

なるほど、例えば施策①のところ、先ほどちょっと委員のほうからも少し前向きな書き方になるかどうか分からないんですけど、既存ストックというものをしっかり地域資源として理解した上でそれを活かしていこうというような。

委員

台湾にこの間行ったときなんか、日本統治時代の50年くらい前の建物をクリエイターがデザ



インを生かしてデザイン力で世界最先端に持っていつている。あんなこと、アーティスト・イン・レジデンスでやったら福井はすごく変わると思うんですね。

#### 部会長

そうですね。少しどちらかというと挑戦的かもしれないんですけど、そういうアーティストに特化する形ではなくて、少し今ある既存ストックをもうちょっと生かすというような内容を書けるかどうかですね。どうですかね。

#### 委員

「若い人たちが挑戦できるまち」というか。

#### 部会長

いいですね、「若い人が挑戦できる」というキーワードもいいなと思いますね。

今の低未利用地の話になってしまうと少しネガティブな印象になるところを少しプラスの書き方にできないかという意見です。どうですか。

#### 委員

何か2つ目の「・」はなかなか、これはこれでこういう言い方が必要なんだろうなと思いつつ、今のアーティスト・イン・レジデンスじゃないですけども、文化的な取組のところがもう少し何か書かれていてもいいのかな、と今ちょっと思うところですね。

県もまちなかで気軽に音楽ができるような仕組みをつくっていかうということに動くみたいなので、その辺のところは何か「魅力あるまち」というところにもふさわしいのかなという気がして。

#### 部会長

例えばそれは、何か新しい施設をがつつり整備するというよりは、既存ストックを生かしながら、私も実は気になっているのは文化の部分で、例えば美術館がまちなかになかったりとかということも含めて、少しそこをかき立てるような「文化的な」という言葉はあってもいいのかなと思いますね。一つ「・」を増やす、どうでしょう。なかなか難しいですか。

#### 事務局

「文化的な」というようなくだりとか、どう入れるかというのは私も分からないのですが、2つ目の「・」の「低未利用地の有効活用」、イメージしているのが今のお話にもちょっと近いのかなと私が思っていたのが、新栄のあのまちで新栄テラスとか新栄リビングの方々頑張ってるやろうとしているあいったものもあるのかなというところは、このくだりの中でイメージとしてあったんですけども、そこがもし伝わっていないのであれば、その「文化的」というフレーズも含めましてちょっと一度考えてみようかなと思います。

この高度利用というのをどう使うのかなとは、個人的には思っているんですけども。

#### 委員

東郷のまちづくりで東京大学の学生さんが実験的に入っているんですよ。その人たちが言っているのは、今までは壊して新しいものを建てる建築学科だったけど、今あるものを生かしてリノベーションを大事にしたいという運動ができつつあるので、東郷や福井市内もすごくいい材料ですよと言われました。

#### 部会長

ありがとうございます。

少しその辺が漂う、高度利用とかになってしまうとどうしてもハード整備というふうな印象が、もしかしらばっと見たときには思うのかなと思いますので、今みたいな話、少し考えさせてください。事務局とまた相談して修正案のほうを提案したいと思います。ありがとうございます。

## 委員

私ごとでちょっと関係ないかもしれませんが、今の「文化的なまち」ということで、私が福井市はとても優れていると思ったのは、福井市の歴史博物館が70歳以上は無料だということを実は昨年まで知りませんで、7時までやってくださっているの、夕方行くともう貸切り状態で見れるんです。県立美術館もすごく良いイベントを先日もやっていましたけれども、入館料が非常に高い上に割引がない。私、美術館が好きなので板垣の市の美術館も歴博もとてもすばらしい施設で、こういうものをもっと活用して、みんながそれをもっと知っていたら、もっと人が来るのではないかと。

それと、ハピリンも実は私の身内が、県庁にこの春異動になりまして、JRで通ったら、ハピリンにあんなに何でもあって知らなかったって言うんですね。福井市のものが全部そろそろ、売れ筋の水ようかんなどは予約しておかないと買えないぐらい人気だと。だから、お買物と、そういう文化的なものを拠点にしたにぎわいのあるまちというのはとても大切だと思います。

## 部会長

ありがとうございます。

何かここを直してほしいというよりは、すごく大事な視点ですよという、実感されているというふうな。

## 副部会長

中心市街地という場所というか地域を限定した施策になっているんですけど、これは中心市街地という言い方を見ますと、JRから西側を中心に書いてあるんですね。当然JRの東側も若干は中心市街地に加わる範囲になるのではないかなと思うんですが、この3つあるうちの「うるおいと個性あるまちづくり」の中の「・」の2つ目に、せめてここに書いてあるように「足羽山、足羽川、荒川の資源を活用する」というふうに入れておけば、旭小学校の荒川のあの辺までを想定しているんですよという意味が入るのではないかなという気がするんですがどうでしょうか。

## 部会長

これ実は文化会館の移転の話もあったりするので、東が荒川も関係してくると思うんですけど、その辺、文言としてどうですかね。

## 事務局

足羽山、足羽川については、県都デザイン戦略をつくったときから、足羽山、足羽川の空間魅力向上のための計画という形で進めてきたということで、今こう書かれているわけです。

東側について、もっと東側がよく見えてくるような書き方が必要ではないか、というご意見ですね。

## 部会長

そうですね。多分高架化してつながるようになった利点を、まちなかというところの捉え方、東側をきちんと含むような形の表現は確かにあってもいいのかなとも思いますので、これも可能かどうかよく検討した上で文言のほうの検討させていただきたいと思います。

## 事務局

参考までに、今の都市計画マスタープランのほうでも、駅の東は区画整理をやったところまでが中心市街地という一つのエリアにはなっていますが、その外側、もっと広い範囲のところがまちなか地区という位置づけというのがあります。

先ほどの表現のところはまた考えなければいけないと思いますけれども、東口の広場とかは視点には入れているというような計画に、今のところなっております。

## 部会長

それは立地適正化計画のほうですね。まちなか地区の捉え方ではそこまでだということですかね。中心市街地としての位置づけはということですよ。

## 副部会長

AOSSAなんかは入ってないのか。

## 部会長

AOSSA まで入ってますね。

ただ、せっかく高架が上がってつながりやすくなったところを東側も、そこまで具体的な場所を書いてしまうと、そういった中心市街地の位置づけがおかしくなってしまう可能性があるので、東側とスムーズにつないで、まち全体をよくしていくというような書き方ができれば。

## 委員

2点ございます。

まず一つは、この文言の中には意味としては入っているのですけれども、言葉として「景観」という言葉が入ってなくて、ちょっとそれが寂しいなと思いました。何とかこの景観ということもちゃんと触れて、市民の皆さんとか、ここに投資をされる方とか、やはり景観ということに対しても意識を持って取り組んでいただければ非常にいいかなという思いがあります。

それともう一つ、その景観の機能が両立して、やはりそこにある必要があるんだろうと思うんですが、その意味でももう1点の、これはROBAのメンバーとして言わざるを得ないということなんですが、せっかく福井に全国に何か所しかない路面電車が走っている。FUKURAMとかki-boとか走ってまして、これ非常に全国的に見て特徴的なんですよ。特徴的だし、もう既に魅力的だし、これがやはり中心市街地に関する政策ということに全く言葉として表れてないというのはもったいないなと思います。

景観と機能という意味でも、福井駅があって、次の駅が福井城址大名町ということで、ここがかなり距離がありますが、本当は西武前に電停が欲しいなというような話をよく聞いたりします。これを実現するにはいろいろ取り組まなければいけないこととかいっぱいあって、そう簡単ではないと思うのですけれども、やはりここを 600 メートル空けておくんじゃなくて、その中にやはり西武前辺りに一つ電停を設けてということも含めてなのですが、路面電車の機能と、それからやはり景観というものを何とか生かすということがこの中に入ってこないかなというふうに思います。

## 部会長

ありがとうございます。かなり強い思いでお話しされたかなというふうに思うんですけれども、これはなかなか難しいですね。公共交通のほうに入れるのか、例えば施策③のところは景観にちょっと近いような内容なのかなというふうに思うんですけれども、その中にキーワードを少し添えてあげるという意味で。

路面電車のことを全面的に前に出すというのはなかなかやはりちょっと難しいと思いますが。

## 委員

難しいのだと思います。ただ、景観という意味で、やはりこれは全部完全に外してしまうというのは非常にもったいないなということは思います。

## 事務局

今、部会長おっしゃっていただきましたように施策③の一番下の「・」のところに「魅力と個性のある景観を創出」という表現はしております。ただ、その前段が「豊富な歴史資源を継承し」という、歴史に特化した言い方になっていますので、この辺りを、さすがに「路面電車など」は厳しい

のかもしれないですけど、福井に特有の魅力ある地域資源をしっかりと活用して、もうちょっとブラッシュアップする、的な形で、魅力と個性のある景観というものをしっかりとつくっていくと、こういう書きぶりはあるのかな、というふうに思いましたけれども。

#### 部会長

そうですね。多分この施策③の「・」のところの一つに含まれるんだろうなという、あえて路面電車を前段に出すというよりは、そんなものも含めて。

確かに全国見てもそんなに、数少ない都市にしか残していないというところはあるので。ここで路面電車を書くことはできないとは思いますが、そういった意味合いも含むということで。

先ほど景観の話があったんですが、前回の総合計画の中でたしか「風格」という言葉がキーワードとしてあったような気がするんですが、これも景観と絡めて歴史というものを感じさせる、しかも質を上げるという意味ではあっていいのかなという、少しそれはコメントとして。

#### 委員

施策②の「にぎわいの創出のための仕掛け、仕組み」のところなんですけれども、今から再開発とか新幹線整備された後の視点に立つと、もう少し夜間のにぎわいとか回遊性みたいなところを入れていってはどうかという気はしています。

特にA街区の再開発については、やはり夜、どういうふうのにぎわいを出すかみたいなどころを少し視点に置いたつくり方とか考え方をしていますので、特にホテルとか住宅がこれからいろんな整備で増えてくる中で、そういう夜間のにぎわいをどうつくり、それをどう回遊するか、させるかみたいなどころも、こういう総合計画の中でうたわれているといいなというふうに思ったんですけれども。

#### 部会長

そうですね。これは付け加えられるのではないかな。すごく面白い視点だと思いますし、中心部ならではの性格というか、強化できる部分なのかなというふうに思うんですがいかがでしょうか、こちらのほうは。また検討してという形になりますかね。新しい文言ですよ。

これ例えば具体的にどういうものが事業として思い浮かぶかということもあると思うんですけど。どうですかね、この辺。

#### 委員

A街区とかで話ししているのは、やはり夜間、建物の中だけで終わらせるんじゃなくて、歩道を使ったような食事であったりとか、中央公園とか城址の周辺のライトアップみたいなもので、食べた後に観光客がそぞろ歩きができるような仕掛けがつかれないとか、そういう話も出ているので。

#### 部会長

分かりました。夜間景観という言い方をしたりとかしますよね。まちなかでそういうものをつくらせてあげることによって人がとどまる空間をあえてそういうものからしてあげることですかね。それができるかどうかということ。

#### 事務局

城址のライトアップとか。A街区の歩道のお話も、道路のほうの法的にも長期間占有できるという法体系にもなっていて、お店といいますか、食事をするために活用することもやりやすくなってきているというところがあります。

また具体的にA街区と道路という話はこれからだと思えますけれども、夜間のにぎわいというところでやるとすると、ほかにあまり項目、今ありませんので、やるとしたら一つ付け加える形になるのかなと思いますが。

## 部会長

施策②に入れるのか、一つ項目を挙げるのかというところですね。

## 事務局

商工労働部のほうでいわゆる観光の切り口から夜間景観というか、やはり夜間の観光消費額が大きいので、そこを評価しようという取組は考えたいと思っています。

ちょっと別の部会のところにかかっている政策の中で少し、ライトアップ等の「夜間景観」というふうな文言自体は、この総合計画の中には入れたいと思います。政策11のところではちょっと触れております。この政策2の中にはちょっと読み取れないんですけども、福井市の政策としては落とすことなくやりたいというふうに思っております。

## 部会長

なるほど。そうですね、もしあれでしたら施策②のところではちょっと項目立てると、もしかしたら政策11のところとの兼ね合いもあると思うので、さらなるというところで少し加えさせていただく形でどうですかね。項目を一つ増やす形になるんですけども、よろしいですか。

やはり人を夜とどめるということはものすごく影響があって、泊まってもらわないとお金が循環しないということもありますので。割と福井は夜間の計画が全然できてないと、外部から来られる方に指摘を受けるので、やはりあえてここで項目立てるといいかもしれないですね。では、施策②のところを含めるという形でよろしいですかね。

## 委員

まず、施策②の「にぎわい創出のための仕掛け、仕組み」のところ、アニメ、ドラマ、小説などと連携したそういう仕掛けを創出していくとか、そういったようなことも。実際に今、福井を訪れる人で、小説の舞台になっているところを順番に巡っているというふうな、そういう聖地巡礼を行っている人もいますので、そういう方向にも力を入れるみたいな、何かそういうニュアンスみたいなものが入れないかなというふうにちょっと思ったんですけど。

## 部会長

ありがとうございます。どうですかね、この辺は。もちろん行政も、そういった誘致、積極的に図ってまちづくりにつながったりも。

## 副部会長

ちょっと関係するんですけど、駅前恐竜はいつまで置いておくんですか。あれとアニメとはちょっと一緒には難しいのではないかなと思うんですが。何か予定はあるんでしょうか。

## 事務局

新幹線開業までこの形で継続していくと。ただ、その後どうするかというのは、またそれからというか、その議論はこれからということになっております。

## 副部会長

私とすれば、福井の駅にはあまりふさわしくないのではないかなという気がしますね。むしろまだ、今、委員おっしゃったようにアニメとかそういう夢があるもののほうがふさわしいと思う。あれが東口へ行くならまだいいと思います。

## 部会長

その辺の議論も多分色んなところでされているとは思いますが、再開発の方の所にも恐竜の話を入れるのかどうかという話があったりするかしないかという話を聞いたんですけど、確か今のところ仮設で恐竜モニュメントは置かれていると私は聞いているのですけれども。確かに顔の部

分にあれがしつらえてあるのを景観としてどうとらえるか。その辺をどこまでここに入れるのかというのは難しい所。

## 事務局

個人的な雑談になってしまいますが、恐竜は確かにおっしゃるとおり、私も最初はえっと思いましたが、実際、県外の方からの反応を見ると、あれっ、意外と何か顔になってきたなというふうな、本当に雑談で申し訳ないです。いろんなご意見があるのは私もよく分かりますし、一方で何かテレビの番組、取材とかになるとあそこが必ず流れるようになってきたという実績も出てきているなど。

## 部会長

なかなか議事録に残すのも難しいかもしれないんですけど。

確かに個性の強いキャラクターがある上で物語をどうのせるのかというところは、もともとあるストックと整合性が合わなくなってくる可能性があるのも、ちょっとその辺はもしかしたら書いてしまうといういろいろな齟齬が生まれる可能性がありますね。どうしましょうね。

何かそういったことで福井市で考えていらっしゃることはありますか。

## 事務局

今ほどのいわゆるアニメですとかメディアですよ、ドラマですとか。そういったものとのにぎわいということと、先ほどの夜間と、いずれも外からのお客様を想定していることでもあるのかなと思っています。

ですので、いずれも政策Ⅱとの連動というのがあるかなと思いますので、その辺りを見て整理をしていく必要があると思います。

## 部会長

ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。

ほか何か。この一番冒頭のところの文言などはいかがでしょうか。ここも「心弾む」という言葉が実は加わっているんですけども、この辺いかがですかね。

ちょっと1点だけ付け加えたいと思うのが、この「訪れた人が、楽しく歩ける、居心地の良いまちづくりを進めます」とあるんですけども、そこに居住空間がたくさん生まれてきているので、「そこに住まう人も」という言葉を入れたほうがいいのではないかなと。

そして、「訪れる人もそこに住まう人も」という形で表現があったほうがいいかなというふうに思いました。何か関連するところであれば。よろしいですかね。

## 委員

今の考え方でいくと、働く人という部分のところも必要なかなというのをちょっと思ったんですが。

## 部会長

なるほど、働く人。そうですね。こちらに働きに来る人もいますね。

言うなれば、ここに住まう人、働く人、訪れる人、あらゆる人がということですよ。

ただ、中心市街地の活性化施策の中でやはり居住空間というところをかなり推し出してずっと動いてきたところもあったと思うので。

## 副部会長

市街地に住むということがまた魅力があるかもしれない。

## 部会長

少し文言を検討させてもらって、また、次回修正案という形で出させていただきたいと思います。

それでは、ちょっと取りまとめというところで、まず出てきましたのが施策①のところ。施策のところの主だったかなというふうに思うんですけども、施策①のところの低未利用地の話は少し書きぶりを、「・」を一つ増やすかどうかも含めて、少し既存ストックの話としてポジティブな書き方に変えられないかというところを検討させていただくというところ。

あわせて、施策②のところ。ここの部分に夜間計画的な人の動きのところを少し支援するよなものを仕組みとしてつukれないかというところを「・」を増やすという形で検討させていただく。

そして、先ほどの物語、アニメであるとか、ドラマであるとか、そういった話は政策Ⅱのほうの施策と整合性を見ながら考えるという形で検討させていただきたいと思っています。

そして、最後のところ。これは委員からご指摘いただいた景観の話をもう少しきちんと見えるような形にする。あと、路面電車の話はもしかしたら入れることできないかもしれない。

## 委員

文言として路面電車という言葉はなくていいと思うんですけど、先ほど事務局がおっしゃったみたいに、歴史だけじゃない、要するに「地域特有の資源」ということをやはり言っていただければそれでいいのかなと思います。

## 部会長

なるほど。「地域特有の資源」という言葉もいいですね。歴史資源だけではなくてということですよ。

あとあわせて、2つ目の「・」のほう、まちなか地区という捉え方を少し東側も含めてという形で検討できないかというところについて、修正を考えていきたいというふうに思います。

最後、冒頭のところの文言のところは、特にご指摘はなかったんですけども、黒塗りの丸のところ「住まう人」というところも考える。あとあわせて、「働く人」ということも考えられるようでしたら考えるという形で修正案を検討していくという形でよろしいですかね。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

それでは、活発な皆様からのご発言をうまく活用させて、いいものに修正していきたいなというふうに思います。

では、本日の審議事項はこの2つの政策をというところでしたので、議事は終了したいと思います。ここで進行を事務局のほうにお返ししたいと思います。

## 6 閉会

### 司 会

ありがとうございました。

それでは、事務局のほうから次回の専門部会の開催日時についてご連絡いたします。

今回は、5月13日木曜日の10時から、本日と同じこの会場で行う予定でございます。委員の皆様にはご出席のほどよろしくお願いいたします。

本日は、長時間にわたりましてご審議いただきまして、ありがとうございました。

(以 上)





## 第八次福井市総合計画審議会 専門部会 第1分野(第1回)出席者名簿

## 第1部会 社会基盤分野

※委員50音順、敬称略

		氏名	備考	出欠
福井市総合計画審議会	部会長	三寺 潤	福井工業大学 教授	○
	副部会長	奥村 清治	福井市自治会連合会 会長	○
	委員	岩崎 正夫	まちづくり福井株式会社 社長	○
	委員	佐々木 教幸	福井 PR 隊@東郷研究会	○
	委員	清水 省吾	(特非)ふくい路面電車とまちづくりの会 事務局長	○
	委員	菅生 敬一	市議会議員	○
	委員	寺尾 匠	福井工業大学 学生	○
	委員	廣瀬 静子	公募委員	○
市	総合計画策定委員	小嶋 直人	都市戦略部 次長	○
		橋本 亜由美	商工労働部 次長	○
		下川 明秀	建設部 次長	○
	事務局	中村 直幸	総合政策課 課長	○
		村本 幸恵	総合政策課 副課長	○
		南 研一郎	総合政策課 課長補佐	○
		國定 慎吾	総合政策課	○
		島出 浩太	総合政策課	○
		前田 恵里	総合政策課	○